



令和7年度第3回企画展

# 馬とまつりごと

—神事と武芸からみる馬の日本史—



ゆいて又を御坐の内より保合休めし  
そよぬうとうもよしとれ休めりて  
えに牛馬化けりけりゆひのよ葉が

令和8年1月17日土～2月21日土

※1月26日(月)は休館

協力:(一社)千代田区観光協会

入場無料 ● 予約不要

会場：国立公文書館東京本館 1階展示ホール  
開催時間：午前9時15分～午後5時

<https://www.archives.go.jp/>



X(Twitter) Instagram Facebook YouTube



記録を守る、未来に活かす。



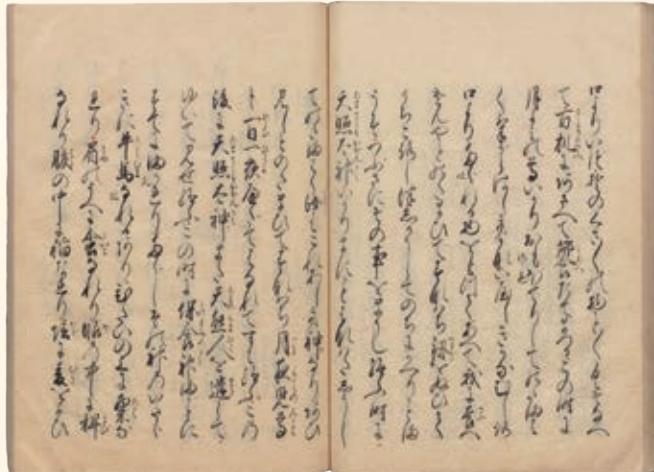
独立行政法人  
国立公文書館  
NATIONAL ARCHIVES OF JAPAN

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 3-2  
TEL : 03-3214-0621

令和8年(2026)の干支は午です。動物としては馬が充てられています。馬は、4世紀末から5世紀の初め頃に大陸から伝来して以降、様々な場面で日本人のそばに寄り添ってきました。本展では、当館所蔵資料から、馬を神に奉げた記録や、武芸や馬具に関する資料などをご紹介します。

# 馬とまつりごと

—神事と武芸からみる馬の日本史—



にほんしょき  
日本書紀

## 馬、神より生ず

『日本書紀』によると、食物の神である保食神（ウケモチノカミ）は、月夜見尊（ツクヨミノミコト）に殺されてしまいます。その遺骸から、穀物や蚕、馬や牛が生じました。馬は、保食神の頭部から生じたと伝えられます。

## 古絵馬そろい踏み

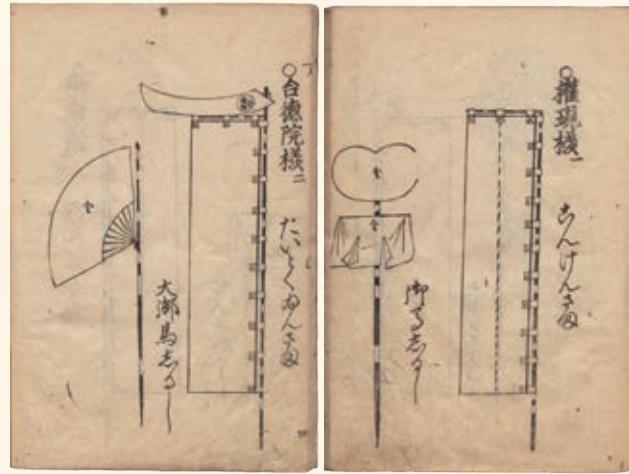


へんがくき はん  
扁額軌範

安土桃山時代、豪華な扁額（門などにかかげる大型の額）形式の絵馬が流行しました。江戸時代には、絵馬の図集も出版されました。

本図は、京都の北野天満宮に奉納された長谷川等伯筆の扁額絵馬の写しです。武蔵坊弁慶が、源義経の命を狙った土佐坊昌俊のもとに討ち入り引っ捕らえる場面が描かれています。

## 大将ここにあり



お うまじるし  
御馬印

馬印とは、将の所在を示すために立てる標のこと。武威と存在感を示すため、様々な意匠が凝らされました。

本図は、『御馬印』より、徳川家康と息子秀忠の馬印。金扇の馬印は、家康から秀忠に譲り渡され、以降、徳川將軍家に代々引き継がれました。

## 展示解説会

日時：1月24日(土)、2月10日(火)(いずれも午後2時～)  
事前申込制(定員40名)、詳細は国立公文書館HPをご覧ください。

**予告 令和8年春の特別展 昭和100年記念特別展**  
令和8年3月中旬～ 開催予定

独立行政法人  
**国立公文書館**  
NATIONAL ARCHIVES OF JAPAN

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3-2  
TEL: 03-3214-0621  
アクセス▶東京メトロ東西線竹橋駅下車[1b出口] 徒歩5分

